

## 高等教育機関に所属する学生のひきこもり親和性とその関連要因に関して

○ 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科修士課程 氏名 米田 政葉 (008824)

志渡 晃一 (北海道医療大学大学院看護福祉学研究科・004278)

キーワード: ひきこもり親和性 SOC CES-D

### 1. 研究目的

ひきこもり親和性とその関連要因を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

本研究ではひきこもり親和性に着目し、ひきこもりを予防するための何らかの示唆を得るという視点に立ち研究を行った。

2014年7月に北海道の医療福祉系高等教育機関に所属する学生257名を対象とし、無記名自記式質問紙票による集合調査を行った。回答を得た247名(回収率96.1%)を対象とし解析を行った。調査項目は、1)基本属性4項、2)ひきこもり親和性に関する4項、3)抑うつ尺度(以下CES-Dとする)日本語版20項目、4)尾一貫感覚(以下SOCとする)日本語版13項目、5)日常生活に関する21項、6)その他65項目である。「ひきこもり親和性」を2群に分類し、15点以上の群をひきこもり親和群、その他の群を一般群と定義し、これを目的変数とし、他の変数を従属変数として関連を検討した。

### 3. 倫理的配慮

本研究では無記名自記式質問紙票による集合調査を行い、調査対象者に 1)結果の公表に当たっては、統計的に処理し、個人を特定されることはないこと。2)調査によって得られたデータは、研究以外の目的で使用しないこと。3)調査に参加しないことで不利益を被ることはないこと、かつ途中での同意撤回を認めるという条件を書面において十分に説明し、口頭でも説明した。同意した対象者の身に質問紙票に記入を依頼した。調査は北海道医療大学看護福祉学研究科倫理委員会の承認を得て行った。

### 4. 研究結果

ひきこもり親和群の割合は15.0%であった。ひきこもり親和群と性別の関連を見ると、男性においては12.0%、女性においては15.7%であり、有意な差は見られなかった。表1に見られるように一般群と比較してひきこもり親和群では、「毎日朝食を食べる」「飲酒しない」の該当率が低く、「喫煙する」「人より多く悩みがある」の該当率が高い。表2に見られるように過去に学校で「不登校を経験した」「いじめをした」「いじめられた」「いじめを見て見ぬふりをした」の該当率が高い。表3に見られるように家庭においても「大きな病気をした」「親から虐待を受けた」の該当率が高かった。

ひきこもり親和性と抑うつの関連を見ると、一般群の53.5%と比較して、ひきこもり親和群で77.8%と有意に高かった。ひきこもり親和性とSOCの関連においては、一般群の

52.3±11.7 に対しひきこもり親和群で 42.7±9.4 と有意に低かった。

表 1 ひきこもり親和性と生活習慣

	一般群	ひきこもり親和群	p
	207(100)	37(100)	
朝食を毎日食べる	159(77.2)	18(48.6)	*
飲酒しない	144(66.9)	18(48.6)	*
喫煙する	13( 6.3)	7(18.9)	*
人より多く悩みがある	27(13.2)	14(37.8)	*

\* : p<0.05

表 2 ひきこもり親和性と過去の学校での経験

	一般群	ひきこもり親和群	p
	206(100)	37(100)	
不登校を経験した	14( 6.8)	7(18.9)	*
友達をいじめた	17( 8.3)	11(29.7)	*
友達にいじめられた	42(20.4)	20(54.1)	*
いじめを見て見ぬふりをした	54(26.2)	16(43.2)	*
学校の勉強についていけなかった	61(29.6)	19(51.4)	*

\* : p<0.05

表 3 ひきこもり親和性と過去の家庭での経験

	一般群	ひきこもり親和群	p
	206(100)	37(100)	
大きな病気をした	20( 9.7)	8(21.6)	*
親から虐待を受けた	3( 1.5)	3( 8.1)	*

\* : p<0.05

## 5. 考察

本研究において 15.0%の人がひきこもりに対して高い親和性を示していた、内閣府の調査から同年代を算出すると 4.8%であるため全国調査よりも高い割合であった。牧らの類似の研究での 33.3%がひきこもり親和群に該当していた。これと比較するために 12 点を cut off ポイントとし算出した結果、44.7%がひきこもり親和群に該当した。尺度水準が異なるため厳密な比較は困難であるが、これらの結果から本対象群のひきこもり親和性は高いと推測される。今後の課題に、対象者数を増やし北海道においてひきこもり親和群が高いのか検討する事、ひきこもり親和性との関連要因をさらに検討していく事が挙げられる。